農業と科学　昭和57年3月1日(毎月1日発行)第304号
昭和31年10月5日　第3種郵便物認可
発行所　〒112 東京都文京区後楽1−7−12 林友ビル　チッソ旭肥料株式会社
編集兼発行人：柴田　観
定価：1部35円

農業と科学

1982
3

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO., LTD.

56年度の農業生産は小幅な回復か？

～ 農業観測の修正見通し ～

農林水産省官房調査課
田村修一

農林水産省は昨年12月に，昭和56年度農業観測修正見通しを公表した。以下は，その概要をとりまとめたものである。

1　農業生産

56年度の農業生産は，耕種生産が低温，台風等の影響により総じて伸び悩み，養蚕が更に減少し，畜産も大きな伸びが見込まれないことから，前年度に比べ2～2.5程度の小幅な増加にとどまるものと見通される。なお，米を除く農業生産は前年度に比べわずかな増加と見込まれる。

（耕種生産）

米は転作等実施面積の増加に加え，作柄が「やや不良」となったものの，かなり大きく減少した。前年に比べれば，2％の増加となった。その他の主要作物では，麦，茶がほぼ前年並み，ばれいしょ，てんさい，たばこが減少，かんしょ，大豆が増加となったほか，果実はわずかに減少，野菜はわずかに増加すると見込まれる。以上から，耕種生産総合では，前年度に比べわずかないしやや増加すると見込まれる。

なお，今年の夏作期間の気象は，北日本を中心に低温に経過し，各種農作物に被害を与えた。被害の最も大きかったのは水陸稲で，特に北海道，東北では水稲の作況指数がそれぞれ87,85となり，2年続きの不作となった。この低温等による農作物の被害見込金額は約2622億円にのぼり，北海道，東北でその88％を占めている。

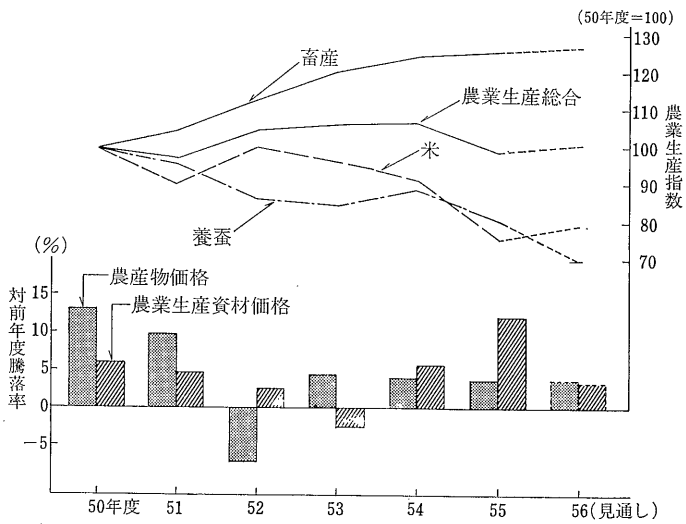
（畜産生産）

肉用牛はかなりの程度増加し，豚はわずかないしやや減少し，ブロイラーはほぼ前年度並みと見込まれる。また，生乳，鶏卵はともにわずかに増加すると見込まれる。この結果，前年度横ばいとなった畜産生産総合は，わずかに増加すると見込まれる。

2.　農産物価格

56年度に入ってからの農産物価格は，4～6月期に前年同期比8.9％の上昇となったあと，7～9月期には同

農業生産の動向



＜1982年3月号目次＞
§ 56年度の農業生産は小幅な回復か？……(1)
農林水産省官房調査課　田村修一
§ 水稲育苗に対するコーティング肥料（ロング）の肥効……(3)
秋田県農業試験場　小野　充
§ 寒冷地における小麦—大豆の輪作体系……(5)
岩手県農業試験場県南分場長　大川　晶
§ 根こぶ病に対するCDUの効果……(7)
秋田県角館農業改良普及所　長松谷正三郎

5.3%の上昇となり，上期を通じては同7.1%の上昇と比較的高い上昇となった。下期についてみると，以下のとおりである。

（畜産物）

ブロイラーは前年同期を上回り，肉豚，鶏卵は下回り，肉用牛，生乳はほぼ前年同期並みに推移し，全体ではほぼ前年同期並みに推移するとみられる。

（果実・野菜）

果実ではみかんが前年同期をややないし，かなりの程度下回り，りんごは，かなりないし，大幅に上回るものとみられる。

野菜は比較的高値となった前年を，やや下回るものとみられる。

（行政価格）

加工原料乳の保証価格は据え置かれたものの，米の政府買入価格が0.5%，麦の政府買入価格が平均3.2%，大豆の基準価格が2.6%それぞれ引き上げられるなど，総じてみれば小幅な引き上げとなった。

以上のことから，56年度の農産物生産者価格は，上期には比較的高い上昇となったが，需要の伸びが緩やかなかで，国内生産の増加が見込まれることから，需給は総じて緩和傾向で推移し，年度間では前年度に比べ，やや上昇にとどまると見通される。

3. 農業資材価格

農業生産資材の農村価格については，54年度は原油価格の上昇，円安，一般卸売物価の上昇等の影響から，期を追って騰勢が強まり，前年度を5.8%上回った。55年度に入ると，一般卸売物価が鎮静化に向かうのに伴い，騰勢は次第に鈍化する傾向で推移したものの，年度間では前年度を11.8%上回った。

56年度に入ってからは，一般卸売物価が引き続き安定した動きを示したことに加え，海外原材料の輸入価格も総じて弱含みで推移したこともあって，前期比で4～6月期1.1%高（前年同期比6.1%高），7～9月期0.5%安（同3.8%高）と落ち着いて推移している。この間，7月に配合飼料の工場建値が5.1%，肥料の生産業者販売価格が平均0.5%それぞれ引き下げられた。

56年度下期の資材価格については，①飼料は，海外飼料穀物価格がアメリカの穀物の豊作予想を反映して夏以降前年水準を下回って推移していること等から，配合飼料の工場建値が57年1月から約6.3%引き下げられることとなった。②肥料は，上期後半の水準で推移するとみられる。③農業機械は，卸売価格が57年1月から平均3.8%程度引き上げられることとなった。④農薬は57農薬年度の製造業者販売価格（56年12月～57年11月の間適用）が最近の厳しい農業情勢のなかで平均10.4%引き下げられた。⑤また，その他の資材は，最近の一般卸売物価が，安定した動きを示していることなどからみて，落ち着いて推移するとみられる。

このため，全体では上期に比べ上昇率が更に低下するものと見通される。以上から，56年度の農業生産資材価格（総合）は，年度中における上昇率はわずかなものとなり，年度間でみれば，前年度をやや上回る程度にとどまると見込まれる。

4. 農家経済

農家経済について56年度の上期の収支としてみれば，農業所得が農業経営費の増加などにより停滞し，農外所得も前年度の伸びを下回ったが，出かせぎ・被贈扶助等の収入増から，農家総所得では前年同期比8.5%の増加と比較的高い伸びとなっている。

地域別の動向をみると，農業所得（現金収支）は，農業粗収益の動向等を反映して関東・東山，東海，中国等では高い伸びを示しているのに対し，北海道，東北では大幅に減少している。農外所得も，前年度比較的高い伸びとなった北海道，東北，九州では伸びの鈍化がみられる。

年度を通じては，農業粗収益はかなりの程度増加すると見込まれるのに対し，農業経営費がやや増加する程度にとどまるものとみられ，全国1戸当たり平均でみた農業所得は，冷害等により大きく落ち込んだ前年度に比べれば，かなり増加すると見通される。

農外所得については，下期には労働需給が緩やかな改善に向かうとみられること等からみて，ほぼ前年度並みの伸びが見込まれ，年度間では前年度の伸びをわずかに下回る程度の増加と見通される。

農家総所得では，低い伸びにとどまった前年度に比べれば，かなりの程度増加すると見込まれる。

昭和56年度農業観測修正見通し総括表

	対前年度増減（▲）率(%)		56年度見通し（前年度対比）	
	54年度	55年度	当　初	修　正
実質飲食費支出	4.1	▲ 0.2	前年度の伸びを上回る増加	1%程度の増加
農業生産	0.2	▲ 7.2	前年度に比べかなりの程度増加	2～2.5%程度の増加
農産物価格	4.1	3.7	米、麦を除く総合ではほぼ前年度並み	前年度をやや上回る
農業生産資材価格	5.8	11.8	前年度をやや上回る	前年度をやや上回る